

## 日本は沈没寸前だった

このところ、人物伝を読むことに忙殺されて、書くことを忘れた状況にありました。大東亜戦争における樋口季一郎中将。この人は、シベリアまで逃れてきたユダヤ人 2 万人が、満州国に入国できずに難民化していたのを見かねて、独断で入国せしめ、同世代の東條英機に対し、いつまでも弱いものいじめはよくないだろうと言って、みとめさせた。杉原千畝よりも前の話である。戦況の流れから、のちにアッツ島玉砕を命令せざるをえなくなった。清廉潔白な人で、「日本軍の悪行」を主張する人に対する反証のひとつである。

日清日露戦争前後に関しては、島村速雄参謀、立見尚文中将。義和団事変の際の柴五郎中佐。さらには、勝つ司令部と負ける司令部。(無論、他の本も読んでいますが) 島村速雄さんや立見中将の話は、司馬さんが坂の上の雲に書いておられるが、立見中将の黒溝台での活躍が東北地方に今でも語り草になって残っている。「この人がいたから、生きて帰ることができた。」・・・立見は本来なら大将になっていなければならぬ勇将であるが、陸軍の山縣有朋が、自分の親友を殺した(無論、戊辰の役のときである。)として昇進を遅らせたと言われている。

柴五郎中佐は、1900 年、扶清滅洋をスローガンに義和団が数百人の外国大使館を攻撃した事件である。数カ国の大使館が集中している所に、義和団 3 万人が殺到したもので、初めは、柴よりも階級の高い外国人武官が指揮をとっていたが、頼りない男で、防戦しているうちに柴の能力が極めて高いことがわかってきて、みな自分の命がかかわってくると、自国の武官より柴を信用する。八面六臂の活躍で、リ्यूトナン・コロネル・シバとして世界中に勇名を轟かせた。初めて世界中に名を知らしめた最初の日本人である。イギリス大使をして、「シバのおかげで助かった」と言わしめた。これがのちの日英同盟の一助となる。また、柴は会津藩出身である。「会津は少将どまり」と薩長政府から嫌われて、というかいじめをうけていたが、柴五郎の活躍を外国人に指摘されたことや、当時の外国人武官が帰国してから出世していたこともあり、「やむなく」昇進させねばならないことになり、陸軍として初めての会津出身の大将になった。

日本史において、あのときこの人がいなかったらどうなっていたらだろう？という人は数え切れないだろう。勝海舟や坂本龍馬などもそうだし、児玉源太郎や秋山真之や秋山好古、柴五郎(2 人は同期生)などもそうである。いま考えると、奇蹟のようなものだが、時代が要求する人が必ず現れてくるものであるが、以下に書くように、この 3 年、まともな人材がでてこなかった。そういう意味では、平和なのか、日本が沈没しそうだったのか？

それはともかく、ついにというか、やっとなんて言うべきか、ようやく国民を欺き、裏切りを続けた民主党が政権を投げ出してくれた。これほど期待はずれのスカタンばかりの政権もない。首相が3人でたが、どの1人も満足な成果をあげることができず、「期待はずれ」の連続であったが、そもそも期待するほうが間違っていたのだ。あらゆる公約を遂行することなく、それでも首相が代わるたびに支持率（これもいい加減な数字であるが）が60とか70とかになる。半年たてば、20%を割るようになる。国民も賢くないから少しも懲りていない。まあ、この程度の国民にこの程度の政府ではある。

順にいけますか。まず鳩山。いきなりCO<sub>2</sub>25%の削減でみんなを驚かせたが、原発稼働中止で火力発電に頼るから、CO<sub>2</sub>削減どころか、増加している。次に沖縄の米軍基地の撤廃。米国まで行って **Trust me!**（おれを信用しろ。Believe me! より強い発言）だが、なんら具体策がでず、単なる思い付き。このため日米関係がギクシャクし始め、沖縄を訪問して、「抑止力になるから、やはり沖縄に」と言う。県民にしてみればぬか喜びに過ぎず、抑止力について、この男は何年政界をうろついていたのだろう。子供にもわかる理屈である。外交を理解できず、結局、信用を失ってクビ。・・・次の総選挙では当選しないだろう。

次がまたひどい。ややこしい献金をうけて辞めざるを得ないときに、2011年3月11日の東日本大震災、大津波である。これによって福島原発が、嘘ばかりの情報をながしていたが、結局はメルトダウン。現場の職員が必死で対策をおこなっているときに、わけもわからないのに「視察」と称して邪魔をしに行く。被災地全体をみる能力がないから、原発ばかりに気をとられ、しかもSPEEDIのデータを公開しないから、多くの被災者が被爆する被害にあった。

挙句は、前後を考えるとなく、単なる思い付きで日本中の原発を停止させてしまい、火力発電に頼るしかなく、足元をみられて高い石油を買わされて、どれほどの散財をしたことか。いつまでも首相の座にしがみつき、被災地の復旧計画を立てるで無し、その道筋も他の人が指摘したことを「政府でやるから」とまともな人を排除し、会議ばかり20も立ち上げたが、なにひとつ機能することなく、ここでも邪魔にしかならなかった。「管」は、すでに述べたように中空で、中身が空気しかない。まことに邪魔者であった。・・・尖閣で中国船が日本の船に体当たりをしてきた映像も公開しない。あまりのことに、職員が動画を公開したら、「日本の船がぶつかってきた」というやくざまがいの言いかけが一目瞭然。しかもろくに調べずに釈放してしまう。これでは、北朝鮮の要人を調べもせずに「丁寧に」送りかえた田中マキコとおなじではないか。

3 人目は野田である。財務省の手先となって、東日本被災地のための増税はやむを得ない面もあるが、その被災地に予算をつぎこむはずが「白昼堂々の横領・横流し」を制止しなかった。なぜ、東日本救済のための予算が遠く離れた沖縄県で使われるのか？これを考えたのが官僚ならばそれを阻止するのが政治だろう。いまもって不自由な生活を強いられている人々への義捐金もどういう使われ方をしたのか、まであやしまれることになる。・・・さらに東京都が尖閣列島を購入するといひ、募金まで集めたのを、横から口をはさんで国が購入することになった。東京都に集まった資金で港を整備すればまだましたが、当面なにも建設しない。なんのための購入だったのか。

北朝鮮による拉致被害者担当大臣もコロコロ代わる。本当にやる気があるのか、よくわからない。こういう大臣を作ったなら、党派を超えて同一人物が10年も20年もかけて交渉するものである。野田の頭の中では、ごく普通の国務大臣くらいでしかない。ご両親たちからみれば時間がないのである。・・・選挙に際し、元大臣という肩書きをあたえたにすぎない。・・・こんな外交の基本も理解できない政権では、しかも3人そろってだから、日本は世界中の笑い者になって、本当に「沈没」しかねない。きわどい所で政権を投げ出してくれた。

衆議院解散になると、雨後の筍のように10以上の新しい、あるいは潰れ損なった党が出現し、なんとかの一つ覚えのように「原発反対」ばかりである。ほかにもやらねばならないことが山積している。もっとも大切なのは経済の建て直しである。そうこうしているうちに古いトンネルの崩壊である。それなら日本中のインフラの整備にも手を広げないといけない。すると、公共事業ばかりに予算が・・・と責める連中がでてくる。いま、トンネルを走っているときに一瞬でも心配にならない人がいるだろうか？

どこやらの知事がなにをとち狂ったか、政党を作る。小沢や亀井といった古兵がはせ参じるが、すでに政治的には役割を終えた連中を集めていったいなにをしたいのか。・・・この知事は都合のいいときには語るけれども、主張が全く逆になっている事が多く、いまひとつ県民からも信頼されていない。こんなのが国家を運営していくのだろうか？ その方が怖い。いろんな党が解説してくれるが、他の党との類似点や異なっている点がもうひとつはつきりしない。

余談ですが、民主党が獲得する議席の数を、専門家たちは80とか120とかいうけれど、まだ記憶に新しいわれわれからみたら、50を超えたら万々歳なのではないか。いずれにせよ、政権党にだけはなあってほしくない。

2012.12.12.